

# 定時制高校生の社会的自立支援のための基礎的研究

○古賀由紀子<sup>1</sup>、坂井邦子<sup>1</sup>、久佐賀眞理<sup>1</sup>、茶屋道拓哉<sup>1</sup>、甲斐村美智子<sup>2</sup>

<sup>1</sup>九州看護福祉大学、<sup>2</sup>熊本大学大学院

## I はじめに

熊本県ではこの20年間、毎年250人前後が定時制へ進学している。2006年の定時制生徒の生活実態調査(熊本県)では、中学卒業後すぐに入学した生徒が6割強で、残り4割は就職、定時制・通信制・全日制から再入学した生徒たちが多くを占めており、全日制の生徒に比較し、家庭や経済的問題、健康問題に対する悩みの割合が高く、様々な困難を抱えた生徒の割合が高いことが報告されている。このような状況を受け、定時制高校生に対し社会的自立を支援する取り組みを平成21年度より開始し3年が経過した。

## II 目的

本研究はこれまでの3年間の事業評価を目的に成果と課題を明らかにする。

## III 方法

21年度から23年度までに3回の事業報告書を作成している。その中に記述されているものを質的に分析して、成果と課題を検討する。

## IV 結果および考察

### (1) 講座について

さまざまな課題を抱えている可能性のある生徒に、社会に出て役立つ知識やスキルを身につけるために企画された講座であるが、年を追うごとに高校側及び生徒の希望を取り入れ、また一般市民や大学生ピアも講師として講座を行っている。また、コミュニケーションが苦手な生徒達に少しずつグループワークを取り入れるようになっていく。

### (2) 高校生の意見分析より

交流会で出された意見をコード化しそれをカテゴリ化した結果①共同②交流③楽しい

もの④知識⑤積極的性のある意見⑥要望の6つに分類された。23年度は特に⑤⑥が増加し、要望として話を聞くだけでなく一緒に作業をする、大学生との共同事業をやりたい等受動的でなく能動的な講座内容への要望が多くなってきた。

(3) 合同会議の高校教師の意見分析より2、3年目ともに各3回の合同会議を実施している。2年目初期はアンケートに対する不安や要望が多いが、次第に生徒の実態、講座に対する要望、意見・気づきが上がり3年目は、要望から共同者としての提案さらには、よりよい事業展開になるための生徒情報提供についても模索しはじめていることが述べられている。

### (4) 成果

記録分析より社会的自立支援の取り組みは、個人介入からポピュレーション介入の段階に入っていると考えられる。今後はこれまでの取り組みを継続しさらに、社会システム介入へと進み支援のネットワークを広げていくことができると考えている。

### (5) 課題

今回は質的分析を行った。自己肯定意識の量的調査も行っているが数が少ない。質・量両面から信頼性のある分析が必要である。

**検討課題:**①取り組みの評価をどのようにしたらよいか。②ネットワーク構築をどのように進めるか。③信頼性のある評価のために今後の取り組みの中で留意しておくべきことは何であるか。連絡先：古賀由紀子、九州看護福祉大学、熊本県玉名市富尾 888 e-mail:koga3909@kyushu-ns.ac.jp